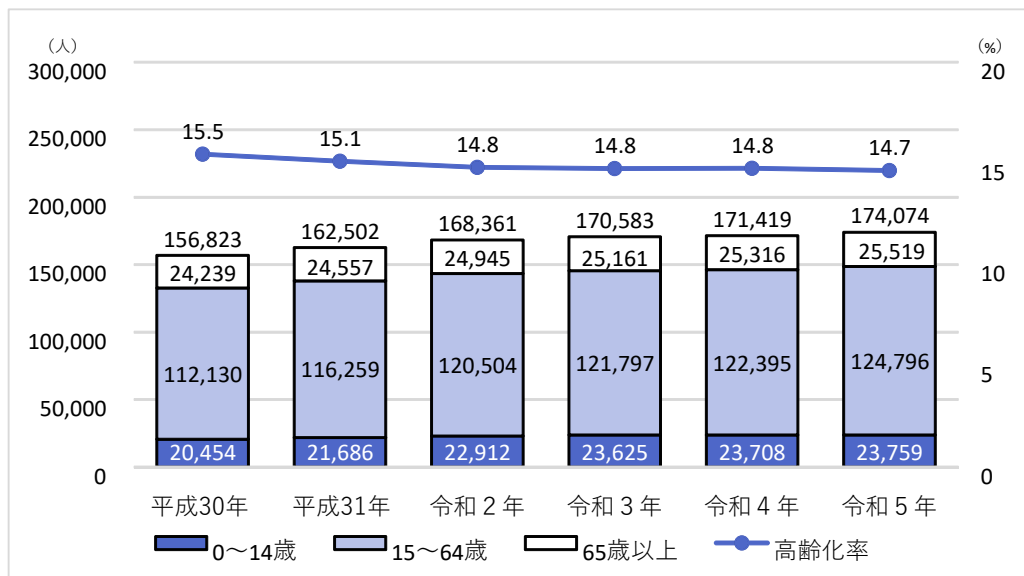


中央区民の健康を取り巻く状況

(1) 人口

中央区の人口は子育て世代を中心に力強いペースで増加しており、令和5年1月1日現在では、174,074人となり、70年ぶりに過去最多を更新しています。高齢化率は低下しており、令和5年1月1日現在では、国や都に比べて低い14.7%となっているものの、近年の人口増に伴い高齢者人口も増加しています。



※中央区の人口データ（各年1月1日現在、外国人人口含む）

(2) 健康寿命

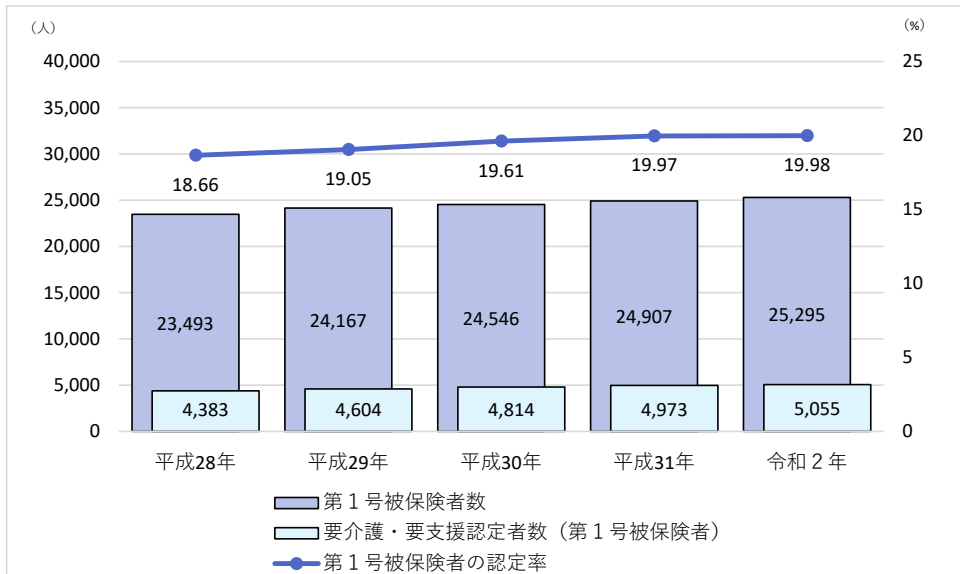
健康寿命は、令和3年は、男性81.63歳、女性82.84歳となっており、女性で東京都を下回っています。特別区の中では、男性8位、女性13位となっています。



※東京都福祉保健局 65歳健康寿命と65歳平均障害期間（令和3年）

(3) 要介護・要支援認定者数

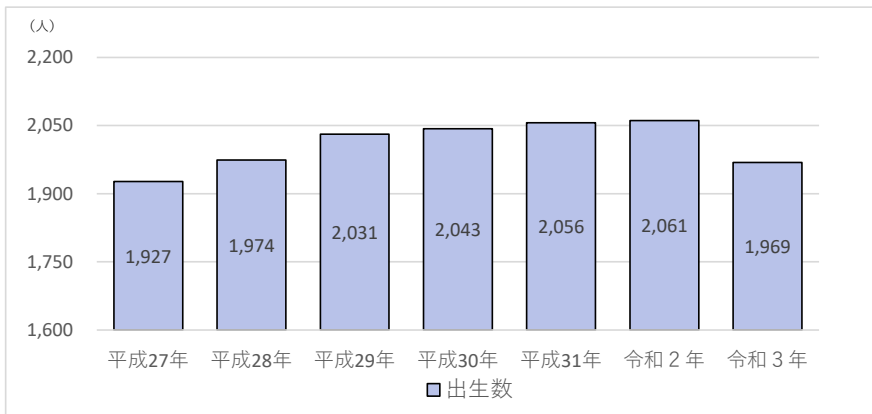
中央区の第1号被保険者数は増加しており、令和2年には25000人を超え、そのうち、要介護・要支援認定者数5,055人で、認定率は約2割となっています。



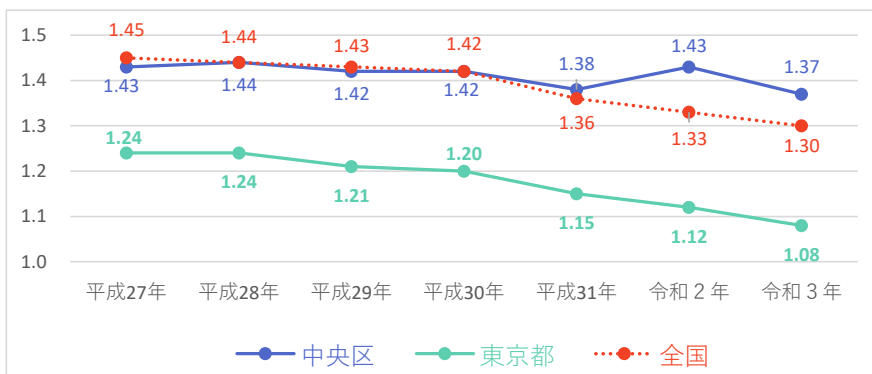
※中央区高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画

(4) 出生数・合計特殊出生率

出生数は、平成29年から令和2年までは2000人を超え、横ばいで推移しています。



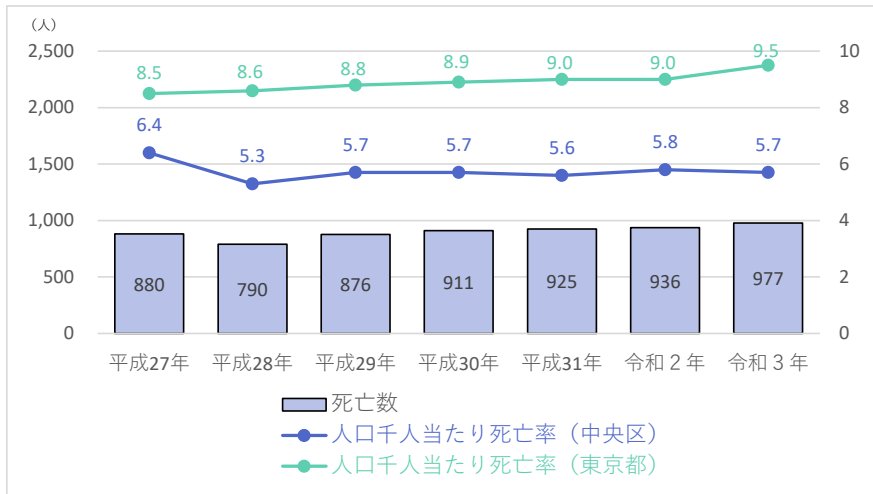
合計特殊出生率は、令和3年は23区で最も高い1.37で、平成31年からは全国よりも高くなっています。



※東京都福祉保健局 人口動態統計

(5) 死亡数・死亡率

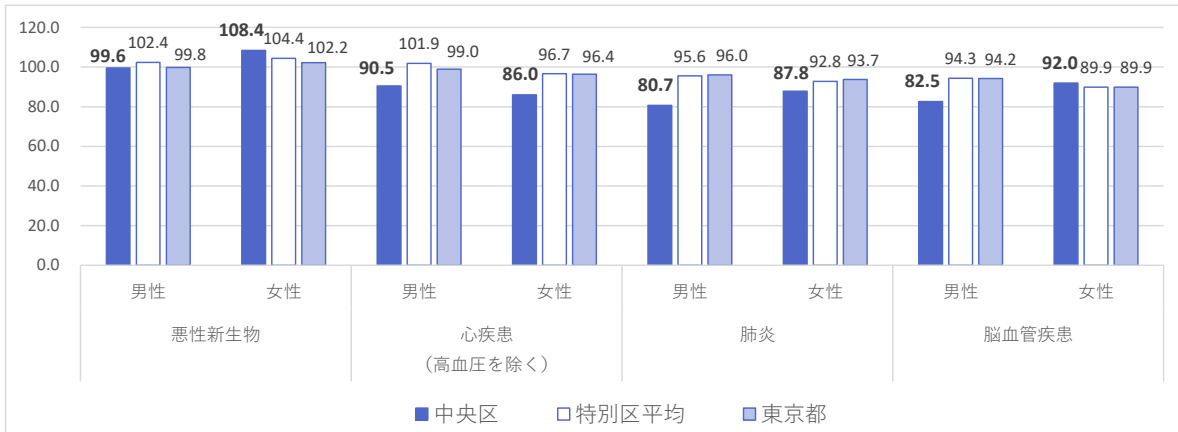
死亡数及び人口千人当たり死亡率は、近年では横ばいになっており、令和3年では、死亡数が977人、人口千人当たり死亡率が5.7となっています。



※東京都福祉保健局 人口動態統計

(6) 主要疾患標準化死亡比の比較

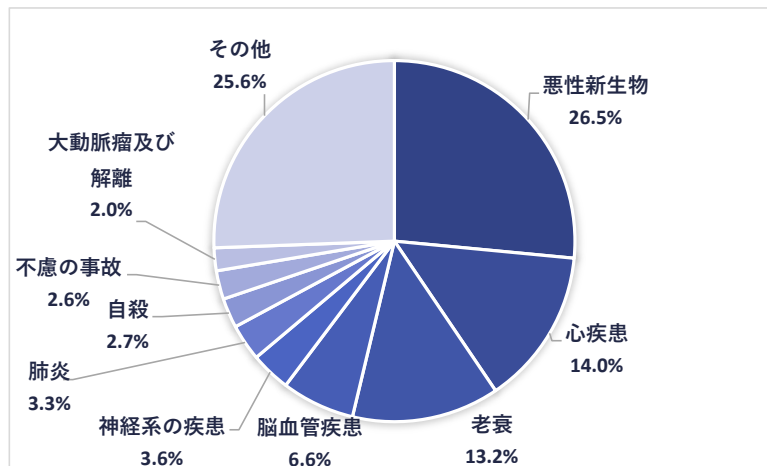
主要疾患標準化死亡比は、女性の悪性新生物と脳血管疾患を除き、男女とも特別区平均及び東京都より低くなっています。「悪性新生物(がん)」は男女ともに高くなっており、女性で「脳血管疾患」が高くなっています。



※厚生労働省 平成25-29年人口動態保健所・市区町村別統計

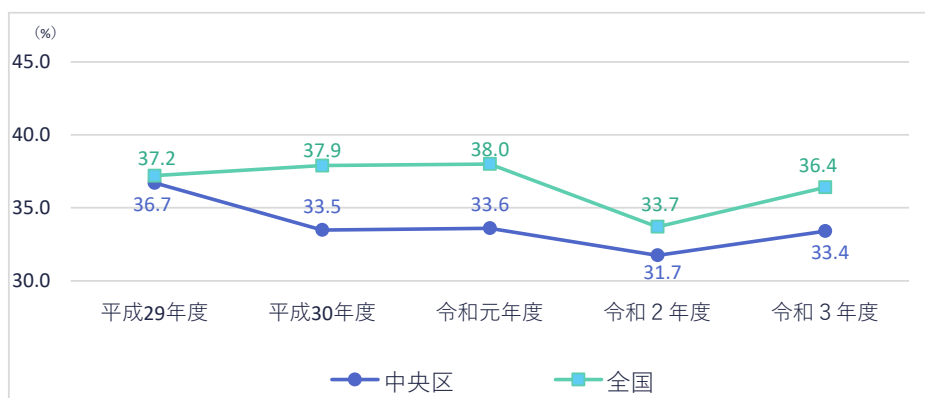
(7) 主要死因別死亡割合

主要死因は、「悪性新生物(がん)」が26.5%で最も高く、「心疾患」(14.0%)、「老衰」(13.2%)と続きます。

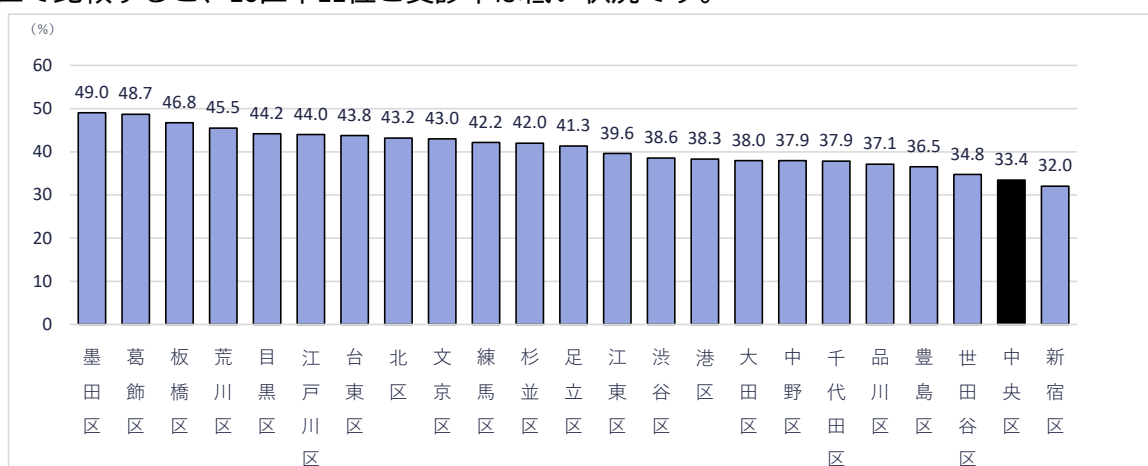


(8) 特定健康診査受診率

特定健康診査受診率は減少傾向にあり、令和3年度には微増しましたが33.4%で全国を下回っています。



23区で比較すると、23区中22位と受診率は低い状況です。



※厚生労働省 特定健康診査・特定保健指導の実施状況について（令和3年度）

(9) がん検診受診率

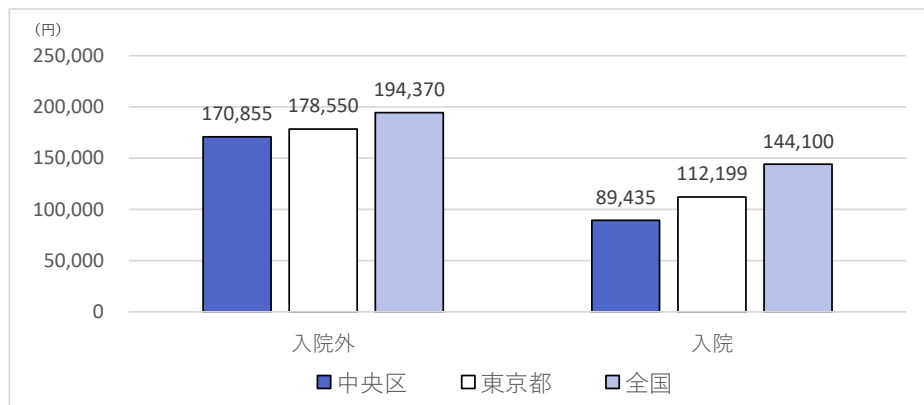
23区のがん検診受診率と比較すると、どのがん検診でも上位5区に入っており、子宮頸がんでは受診率が1位となっています。

	1位	2位	3位	4位	5位
胃がん	文京区：38.3	中央区：37.8	港区：35.2	台東区：25.8	荒川区：25.3
肺がん	葛飾区：41.1	港区：34.2	中央区：32.0	千代田区：30.1	文京区：29.4
大腸がん	板橋区：37.9	目黒区：36.2	港区：34.4	千代田区：31.6	中央区：29.9
子宮頸がん	中央区：41.4	文京区：40.4	港区：37.6	千代田区：34.6	台東区：33.2
乳がん	文京区：37.4	中央区：36.9	港区：36.9	台東区：36.5	目黒区：33.0

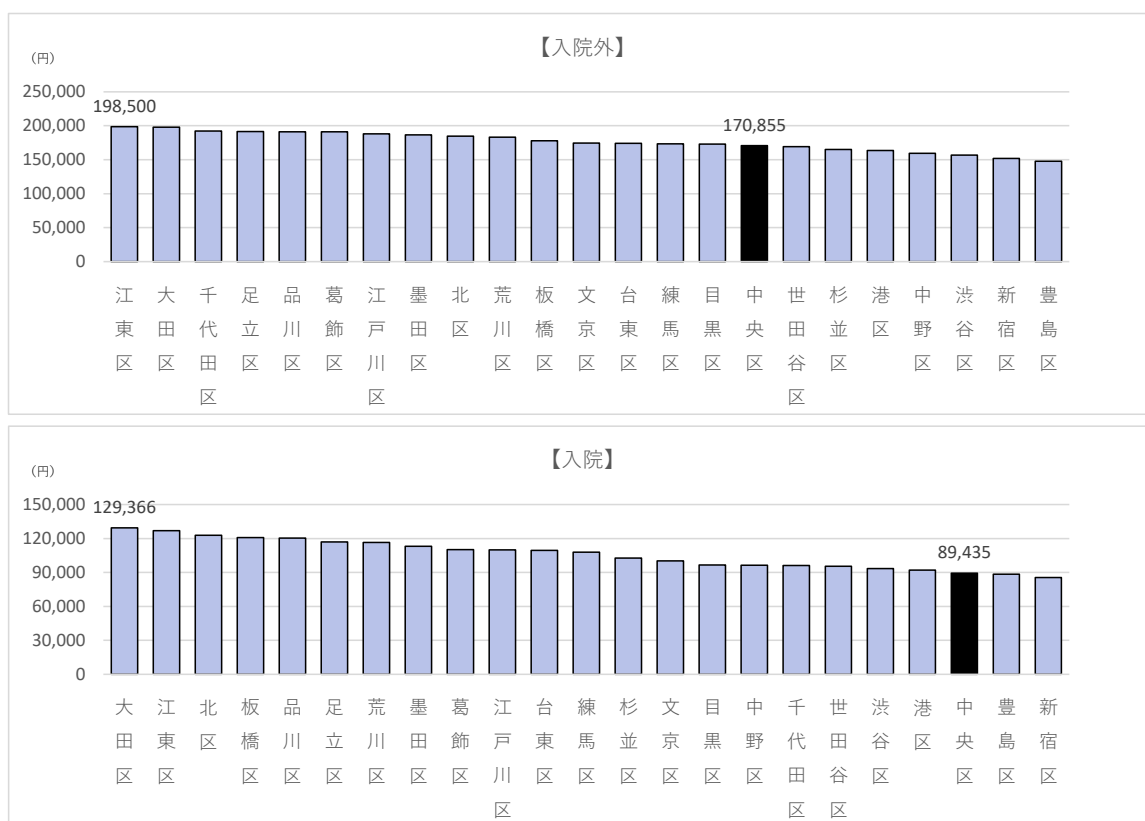
※東京都福祉保健局 区市町村別 がん検診実施状況一覧（令和3年度）

(10) 年間一人当たりの医療費

年間一人当たりの医療費は、外来・入院とも、全国・東京都の平均より低くなっています。



23区の年間一人当たりの医療費と比較すると、外来、入院ともに低く、入院では23区内で21位となっています。



※厚生労働省 医療費の地域差分析（令和2年）